
届かぬ想い。

Asu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かぬ想い。

【コード】

N5998Y

【作者名】

ASU

【あらすじ】

届かぬ想い。寂しくて、切なくて。短い快斗の恋物語。

part 1 (前書き)

やっちゃんいましたd)ー)！

二作品同時連載!!!

今回は快斗と哀ちゃんのラブストーリーですよー) *
)

part 1

俺は黒羽 快斗。普通の高校生？だ。

今日は怪盗KIDとして、仕事をしてきた。

時価500万円のダイヤモンド。白馬も来てて、結構楽しかったぜ。

俺は歩きながらふと横を見ると、江戸川コナンとよくいる、灰原哀を見つけた。

あの娘は、いつも瞳に何かを隠している。何か、すごく重いもの。俺には想像出来ないような大変なこと。

どうにかして、どうにかして助けたいと思った。なぜか。ああ、俺、あの娘に一目惚れしたかも。青子でも、こんなこと思わない！

快斗「明日、来るか。」

俺は、そう決意し家路についた。

part 1 (後書き)

本当にへんテコでごめんなさい(T_T)
どうかして文才が欲しいー！ー！ー！

誤字脱字の指摘、よろしくお願いいたします(*^_^*)

part 2 (前書き)

更新遅くなつてすみません (T^T)

誤字脱字の指摘、よろしくお願いいたします (*^^*)

part 2

次の日の夜、俺は怪盗kidの格好で少女の前に降り立った。

Kid「こんばんは、お嬢さん。」

哀「あら。キザな怪盗さん。」

彼女の瞳を見ると、やっぱり重い物を背負い込んでる様に見えた。その青い綺麗な瞳に吸い込まれそうだった。

哀「何か用かしら？」

Kid「その瞳に隠された、重い物を取り除きに来ました。」

哀「重い物？」

Kid「あなたが背負い込んでると思われる、とても、重い物ですよ。」

哀「別に重くなんかないわよ。これも、工藤君のためだから。」

工藤君の単語を発した瞬間、彼女の表情がとても柔らかくなった。

ああ、この子、あの名探偵が好きなんだ。それがわかった瞬間、胸の奥がいたくなった。どうにもならない様なとても辛い痛み。

Kid「そうですね。…今日は失礼します。」

一言だけ告げて、そのまま去った。その時にもまだ辛い痛みが心の中にあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5998y/>

届かぬ想い。

2011年11月21日22時43分発行